



きずな

第5号

発行 令和3年12月7日

全国公立学校教頭会

電話：03-3436-6868

Mail：zenkokyo@kyotokai.jpHP：<http://www.kyotokai.jp>

前号は、令和3年8月に行われた「第63回全国公立学校教頭会研究大会 佐賀大会」の分科会協議の概要をお伝えしました。今後、数回に渡り、全国公立学校教頭会ブロック大会の様子をお知らせしていきます。今回は、令和3年9月17日の「第54回 北海道公立学校教頭会研究大会 帯広大会」と令和3年10月28日の「第49回東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会福井大会」についての報告になります。教頭会通信の発行に向けて、各ブロック長様に研究大会の様子をご報告いただきました。ありがとうございました。

私たち全公教校広報部もオンラインで参加させていただきました。

1 大会名称 **第54回 北海道公立学校教頭会研究大会 帯広大会**

2 開催期日・場所 令和3年 9月17日(金)
場所：(主幹・帯広市教頭会) オンライン開催



3 日程・大会の概要

(1) 日程

開会式	9時30分～10時15分
記念講演	10時30分～12時00分
分科会	13時00分～15時50分
閉会式	16時00分～16時15分

(2) 概要

○研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」
サブテーマ ～夢をもち未来を創り出す力を育む 活力ある学校づくりの推進～

○記念講演 演題 『地産地消地人のパンづくり』
講師 株式会社満寿屋商店 代表取締役社長 杉山 雅則 氏

○分科会 オンラインを活用して分科会を実施

4 大会に参加しての感想等

- ・ 全道研究大会としては初のオンラインによる参加視聴型の大会となったが、当日はほぼ滞りなく進み、また内容も教頭の職能の向上に資するものが多かった。発表者や運営側の思いが伝わる大会となっていた。
- ・ 大変苦労も多かったと思うが、開催できただけ、参加できただけ、そして、全道の教頭先生の実践発表を、オンラインとはいえ姿を見て生の声で聞けただけでも十分な成果だと思う。
- ・ 記念講演は、「地域愛・仕事愛」に満ちた元気をもらえる内容であった。
- ・ 地元に密着し、その道に没頭している方の話は、教頭職の参考になることが多いと思った。
- ・ すべての提言を聞くことができたのは良かった。普段なら参加した分科会の提言しか聞けないので…。
- ・ ウェビナー機能を使った講演は、視覚にも訴えられ、聞く側にとってはとても分かりやすい。話す側にとっては聞いている人が目の前にいないと話しにくいということをよく聞くので、今回、帯広の先生方が実際に参集して聞いていたことはよかったと思う。
- ・ 各単位教頭会が主題の設定やアンケート分析などをしっかりと行い、3Cの視点から研究を進めている様子のわかる提言発表が多かった。

- 1 大会名称 **第49回 東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会 福井大会**
- 2 開催期日・場所 期日：令和3年10月28日(木)
場所：フェニックス・プラザ、ハピリン、国際交流会館、福井県教育センター
- 3 日程・大会の概要
- (1) 日程
- | | |
|------|----------------------------------|
| 開会式 | 9時30分～10時10分（基調提案含む） |
| 記念講演 | 10時20分～11時50分（ライブ配信） |
| 分科会 | 14時00分～16時40分（上記4会場：6分科会に分かれて実施） |
| 閉会式 | 実施しなかった。 |
- (2) 概要
- | | |
|------|---|
| 研究主題 | 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」 |
| 記念講演 | 演題：『子どもの脳とこころを傷つけない子育てとは』
サブテーマ：日常に潜むマルトリートメント（避けたい子育て）が脳におよぼす影響
講師：福井大学子どもこころの発達研究センター教授 友田 明美 氏 |
| 分科会 | 各分科会提言者【県内外から】と福井県内全教頭による研究討議 |

4 大会の感想

本大会は、コロナ感染予防対策として1日開催となり、当日参集したのは、各県事務担当者、各県役員・理事、各分科会助言者・提言者、そして、福井県の全教頭であった。午前の内容は、すべてオンラインでライブ配信し、県外の参加者は、大会要項に添付されたQRコード等を使って視聴することができた。午後からの分科会は、提言者と福井県内の教頭による研究討議となり、県外の参加者は、各提言者の発表内容（事前録画版）を福井県教頭会HPからいつでも視聴することができる大会となった。

福井大学の友田先生による記念講演では、言葉がいかに脳の発達に大きな影響を及ぼすかについて医学的根拠を基に説明があった。やはり、相手を思いやる言葉、ねぎらう言葉、褒める言葉は、相手のこころも体（脳）もすべてをプラスに動かすことが理解できた。教師という人を育てる聖職に携わる私たちの言葉について、深く自省する意義ある場になったと感じた。ある子育てで悩んでいたという県外の参加者からは、「現場に即通じるお話で、とても勉強になり、福井へ来て良かった。」という大会運営側として、ありがたい言葉をいただいた。

現時点（11/8付：約550名）のアンケート集計結果からも、95%の方が大会運営に対して「よい」という評価で、記念講演と分科会提言内容においては、98%の方から「よい」という評価を得ることができた。結果として充実した大会内容となり、関係者の方々に対し心から感謝申し上げたい。